

発表の国際性

後藤 英一*

神奈川大学理学部情報科学科

計算機科学の分野でノーベル賞に相当するのはチューリング賞とよく言われる。日本人ノーベル賞受賞者は物理 4 名, 化学 4 名といるが, チューリング賞を受賞した日本人は未だいない。ノーベル賞の受賞理由になった論文は全て国際的に広く流布している雑誌に投稿されている。

鈴木梅太郎は脚気(かっけ)の問題を解決するために研究し, 米糠中に脚気をなおす成分があることを発見した。この有効な成分がアベリ酸(ビタミン B1)であることを解明し 1910 年に日本で発表した。しかしこの物質は 1912 年に Casimir Funk (ポーランド人) が別に発見し, ビタミンと名付けた。ビタミンの研究でノーベル賞を受賞したのは鈴木でも Funk でもないイギリスの Christiaan Eijkman である(1929 年)。鈴木梅太郎が英語で一流の国際誌に投稿していたら事情は変わっていたかもしれない。

また佐々木建昭 [6] は「高橋秀俊, 石橋義弘」の素数を法とする計算を英文で書けばよかったと述べている。この論文はそれぞれ日本語版 [1], 英語版 [2] とともに参考文献の示すところにそれぞれ掲載されている。しかし情報処理の英文誌は世界的に広く読まれていないという問題があったのかも知れない。高橋, 石橋の論文については「情報処理」の「20 世紀の名著名論」に紹介されているので参考にして頂きたい [7]。

こうして見ると良い論文は英文にして一流の雑誌に出しなさいということになると日本語の良い論文は無くなってしまう。この問題の解決策として英文論文の日本語訳, またはアブストラクトを掲載し, 英文の方はどこどこに投稿したということを明記してはどうだろうか。このことが読者のためであり, 投稿者自身の励みにもなるだろう。

何でも論文は英文にすれば良いかどうかというものではなくて筆者は金田とハッシュ法の利用により数式処理が高速化できるというのを SYMSAC'76(Symposium on Symbolic and Algebraic Computation, Aug. 1976, New York) に投稿した [3]。ところが同一の会議で同様の主旨の論文が他に 2 編も出されていた [4][5]。しかし内容はとてもチューリング賞にはおよばない。

*goto@goto.info.kanagawa-u.ac.jp

謝 辞

本文を書くにあたって文献調査して頂いた神奈川大学理学研究科情報科学専攻 堀 幸雄君に謝辞を称する。

参 考 文 献

- [1] 高橋秀俊, 石橋義弘: 電子計算機による exact な計算の新方法 (modulo p 演算の応用), 情報処理学会, Vol.1, No.2, 1960, pp.78-86.
- [2] H. Takahashi, Y. Ishibashi: A New Method for "Exact Calculation" by a Digital Computer (An Application of Modulo p Arithmetics), Information Processing in Japan, Vol.1, 1961, pp.28-42.
- [3] Eiichi Goto, Yasumasa Kanada: Hashing LEMMAs on time complexities with applications to formula manipulation, Proceedings of ACM Symposium on Symbolic and Algebraic Computation, Aug. 1976, New York, pp. 154-158.
- [4] F. Gustavson, D.Y.Y. Yun: Arithmetic complexity of unordered sparse polynomials, Proceedings of ACM Symposium on Symbolic and Algebraic Computation, Aug. 1976, New York, pp. 149-153.
- [5] D.Y.Y. Yun: Algebraic algorithms using p-adic constructions, Proceedings of ACM Symposium on Symbolic and Algebraic Computation, Aug. 1976, New York, pp. 248-259.
- [6] 佐々木建昭: 新しい芽を執念深く育てよう, 数式処理, Vol.9, No.4, 2003, p. 1.
- [7] 伊理正夫: 20 世紀の名著名論, 情報処理, Vol. 43, No.5, 2002, p. 553.